

各主体における取組状況について

各主体における取組状況について
〈関係市における取組状況〉

- 栃木県 小山市
- 千葉県 いすみ市
- 千葉県 野田市
- 埼玉県 鴻巣市
- 千葉県 我孫子市

(以上、委員名簿順)

地域をつなぐコウノトリ

～持続可能な田園環境都市をめざして～



小山市長 浅野 正富

渡良瀬遊水地

田園環境都市 おやま

利根川中流域、小山市南西端に位置。
栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の4県4市2町にまたがる国内最大の遊水地
(総面積3,300ha)



環境学習フィールド 3



ラムサール条約 3つの理念



2020.5

コウノトリ野外繁殖



小さな自慢が
山ほどあります

1971年に国内の野生個体が絶滅して以降、
野外繁殖としては東日本初



2020.10

繁殖ペアのうち母鳥が死亡

左脚を骨折した母鳥を関係者協力のもと、小山市が保護





2021年 2年連続 野外繁殖

2018年から定着したオスと野田市放鳥のメス個体が繁殖
3羽のヒナ誕生 ※1羽は間引きにより死亡



これからの展望



2021.12
小山市有機農業推進協議会 設立
2022.~
ビオトープ水田 開始





環境負荷の低減 生物多様性の保全 安全・安心な食べ物の共有



コウノトリ = 湿地生態系の頂点
土地・人・自然・生きもの = 風土



「園児と一緒に」
撮影：横田 耕司 氏

持続可能なまち 小山市の実現
「田園環境都市 おやま」
||
コウノトリに見守られながら
永続的におこなっていく
まちづくり



撮影:写真家 堀内 洋助 氏



千葉県いすみ市

自然と共生する里づくりの取組

いすみ市の有機米100%の学校給食 成果

- ・有機農業者ゼロから4年で産地を形成
- ・学校給食における残食の減少
- ・イメージアップと認知度向上
- ・移住者の増加
- ・農産物のブランド化
- ・農業所得の向上
- ・新規就農希望者の増加

その他

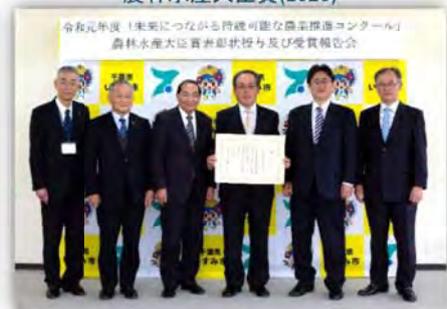
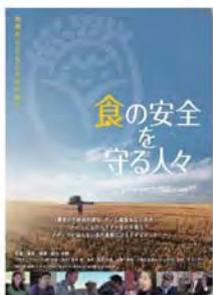
JALファーストクラス機内食(2016)に採用

JAL国内線ファーストクラスのおもてなし 日本各地の産品プロデュース機内食 千葉県
 一初秋を彩る地元産品を創作日本料理で

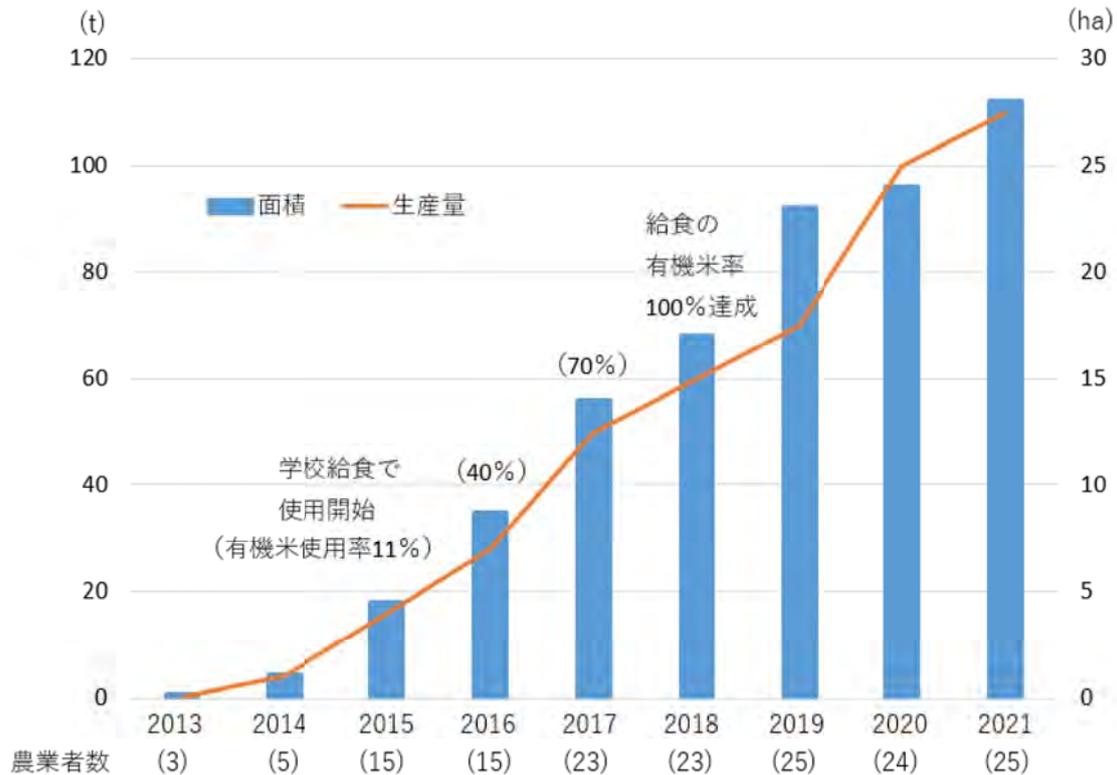


辻静雄食文化賞(2020)

未来につながる持続可能な農業推進コンクール
 農林水産大臣賞(2020)

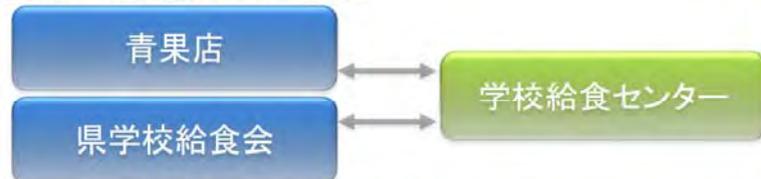


有機米生産の推移(いすみ市)



学校給食へ地場産有機野菜を導入

通常の給食野菜の流れ



青果市場の野菜が安定的に供給されるシステム
 →地産地消は県内産がメイン
 →**地元野菜は供給できない!**

学校給食有機野菜供給体制構築事業 2018年～

○給食センターの現体制で無理なく使用できる品目から優先

2021年度は、有機ニンジン、有機コマツナ、有機メークイン、有機タマネギ、有機ニラ、有機ネギ、有機ダイコン、有機キャベツ 8品目に占める有機の割合はおよそ2割

いすみ産有機野菜の流れ



品目選び～作付け、納入まで、定例会で協議



■有機米給食と連携した食・農・環境教育

「環境」と「農業」と「食」を一体的に扱う教育プログラムの開発に着手
一年間で30時限(15テーマ×2時限)を扱う



◆従来の教育

「環境教育」と「食育」と「農業体験」が
一体的に扱われていない
→農業の多面的価値を理解できない



◆いすみ市の食・農・環境教育

→健全な環境が、自身の健康と
健全な社会を保障している





いすみ生物多样性戦略

いすみ生物多样性戦略

生物多样性豊かな地域づくり
里山里海を守り伝える人づくり

2015年2月 いすみ市

「いすみ生物多样性戦略」の7つの対策の柱と重点事業

いすみ市が定めた「いすみ生物多样性戦略」の7つの対策の柱と重点事業（143頁）をもとに、7つの対策の柱を、各対策ごとの施策の概要（第148頁）を整理しました。そしてさらにその中から以下の重点事業（24頁）を整理しました。

環境改善の分野	観光・利用の分野	生態系づくりの分野
<p>1 自然環境の回復・文化の継承・観光 (観光振興、観光) ○自然環境の回復 ○文化の継承 ○観光の振興</p>	<p>4 地域振興や人々の知恵の学び・継承 (観光振興、観光) ○地域振興 ○人々の知恵の学び・継承</p>	<p>6 生物多様性を生かした産業創出 (観光振興、観光) ○生物多様性を生かした産業創出</p>
<p>2 自然環境の保全・自然環境の再生・管理 (自然環境の保全、自然環境の再生、自然環境の管理) ○自然環境の保全 ○自然環境の再生 ○自然環境の管理</p>	<p>5 生物多様性を生かした産業創出 (観光振興、観光) ○生物多様性を生かした産業創出</p>	<p>7 生物多様性を生かした産業創出 (観光振興、観光) ○生物多様性を生かした産業創出</p>

市民の役割
市民の皆さんには、生物多様性の豊かな環境を支えていることを誇り、生物多様性を生かした産業創出を推進することが求められます。また、地域や子どもたちへ自然の大切さを伝え、生物多様性の豊かな環境の維持・再生に貢献することを期待されます。

策定から5年。
取組成果をまとめたパンフレットを作成。



いすみ生物多样性戦略

生物多样性豊かな地域づくり
里山里海を守り伝える人づくり

2015年2月 いすみ市

いすみ生物多样性戦略

生物多样性豊かな地域づくり
里山里海を守り伝える人づくり

2015年2月 いすみ市

令和3年度 コウノトリをシンボルとしたまちづくり



野田市長 鈴木 有

第9回関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会
令和4年2月8日（火）

令和3年度の放鳥について

【放鳥7年目】

■ 遺伝的多様性を考慮し、兵庫県立コウノトリの郷公園から有精卵を譲受け、親鳥ペアに托卵
(托卵日：令和3年5月3日)

■ 5月7日 2羽のヒナが誕生

■ 8月11日 「J0387：リン（メス）」、
「J0388：ミズキ（オス）」を放鳥



現在の放鳥個体の状況について



令和4年1月17日現在の状況

放鳥個体の様子

渡良瀬遊水地付近

左H28放鳥ひかる、右R1放鳥レイ



千葉県野田市の付近 (H29放鳥ヤマトとR3放鳥リン)

市内への飛来・滞在の様子



木野崎地区（9月）



江川地区（12月）

市内各所にコウノトリが飛来・滞在



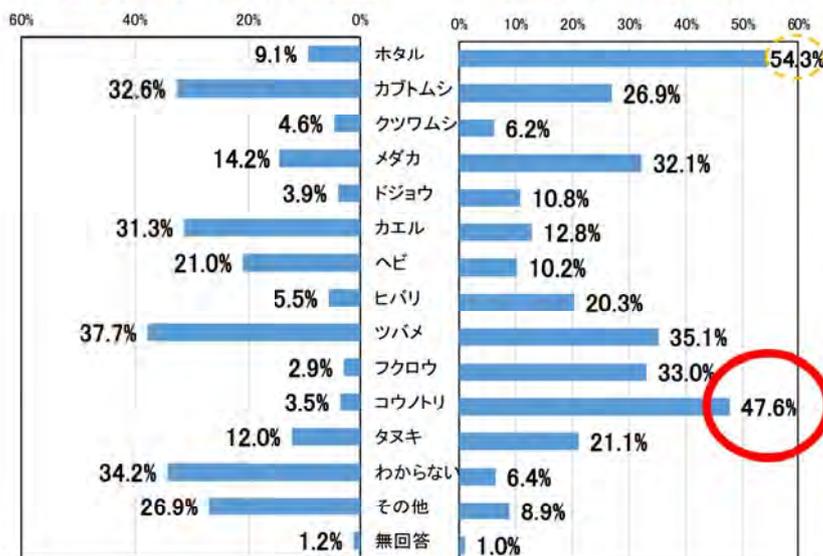
木間ヶ瀬地区（9月）

生物多様性の保全について

10年後、どんな生きものが野田市内でふえると
いいな、と思いますか？

第1期戦略時（H23年調査）

今回（R2年調査）



コウノトリ
をシンボル
とした取組
の認知度は
高い



今後の取組について

これまでの成果（市内でのコウノトリ長期滞在、関東での野外繁殖成功など）をふまえ、新たなステージに取り組むために計画の策定が必要



野田市コウノトリ保全計画の策定

※野田市コウノトリの保全に関する有識者会議で検討し、令和4年3月策定（予定）

【5年間の推進方針（案）】

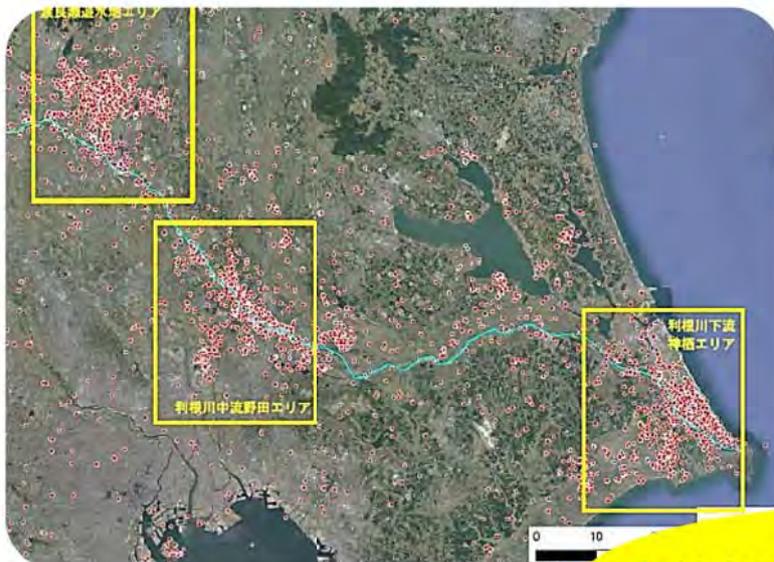
- 1 コウノトリの飼育・繁殖・放鳥における推進方針
野田市周辺での野外定着等
- 2 コウノトリの保全を支える取組の推進方針
施設整備、自然環境整備、社会環境整備等
- 3 広域連携に関する推進方針

広域的な地域連携におけるリーダーとしての役割等

広域連携

豊かな水辺環境の必要性

利根川流域がコウノトリの生息域となっている



関東エコロジカルネットワーク
の形成のために

河川環境整備への期待



埼玉県鴻巣市



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



コウノトリの舞う
魅力的な
まちづくりに
取り組んでいます

人にも生きものにもやさしい
コウノトリの里 こうのす
の実現を目指して



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



背景

本市に息づくコウノトリ



豊かな自然環境



コウノトリ

トンボ、カエル、
ドジョウ、イナゴ

メダカ、水生昆虫
動物プランクトン

水生植物、水草
植物プランクトン

目指す姿

「人にも生きものにもやさしい
コウノトリの里 こうのす」

笑顔が輝く
担い手づくり



自然と共生する
環境づくり



にぎわいのある
元気なまちづくり



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



関東2例目の放鳥拠点



コウノトリ野生復帰センター
令和3年3月完成



令和3年10月 飼育開始

【飼育体制】

- ①コウノトリの飼育・繁殖の実績を持つ、埼玉県こども動物自然公園の全面協力により、飼育スタッフが常駐
- ②医療体制についても、同園高木副園長を中心とした医療チームと連携できる体制を構築

⇒ 繁殖に向けて万全の飼育体制



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



コウノトリ野生復帰センター
令和4年1月29日 一般公開



令和4年1月29日
テープカットの様子

【関心の高さ】

- ・ 1月29日(土)、30日(日)、31日(月)の3日間で、2000人を超える来館者
- ・ 鴻巣市民はもちろん、市外の方も多数来館いただく
- ・ 年配の方の関心が高い



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



現在の取組 続々誕生！ コウノトリブランドの紹介



①川幅2537うどん ~鴻巣市に
コウノトリがやってきた~



②こうのとりベビー大判焼き



⑤こうのとりポーチ

現在の取組 コウノトリの里づくりに向けた普及・啓発



こうのとり伝説米の活用(H27~)



ゲストティーチャー授業(H28~)



放鳥に向けた取組① 生きもの調査



通年の生きもの調査により、コウノトリの採餌環境調査を実施

放鳥に向けた取組② 湿地再生の実証実験／ふゆみずたんぼ・なつみずたんぼ



コウノトリが定着できる自然環境の整備を進めるため、市内公園予定地を活用した湿地再生の実証実験を実施。

また、農薬を使わず管理することで多様な生物の住処になるふゆみずたんぼや、

なつみずたんぼのような環境にやさしい取組に対して支援している。



大間湿地再生事業（国土交通省）について



整備イメージ



提供：国土交通省 荒川上流河川事務所

- ・大間湿地再生事業は渡良瀬遊水地同様、コウノトリの定着が期待できる。
- ・鴻巣市では、コウノトリの飼育開始により、地域全体の気運が高まっている。

⇒ **早期完成**を期待しています！！



ご清聴ありがとうございました



千葉県我孫子市

『手賀沼のほとり 心輝くまち あびこ』

～ 人・鳥・文化のハーモニー ～

市長 星野順一郎



我孫子市観光PRキャラクター
手賀沼のうなきちさん



我孫子市の概況

■地勢

海拔約20m、南北延長は最長部で約5km、東西延長約14km、面積は43.15km²です。地理的には千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川にはさまれた細長い馬の背状の土地となっています。

■歴史

昭和30年4月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和45年7月に市制を施行しました。

豊かな水と緑に恵まれ、都心から約40km、常磐線で35分の近距離にあり、また平成27年3月から、常磐線が品川まで延伸したことにより、首都圏へ通勤する人々の利便性も増してきています。

■人口と世帯(2021年4月1日現在)

人口：131,559人
世帯：60,114世帯



我孫子のシンボル“手賀沼”

手賀沼の面積は650ha。
手賀沼周辺には色々な施設があるほか、イベントが多く開催されるなど、市民の憩いの場となっています。



水の館



カヌー



手賀沼公園



生涯学習センター アビスタ

鳥の博物館

鳥類を専門に研究・展示する自然史博物館です。
世界の鳥の標本をはじめ、トキの剥製や絶滅した世界一の巨鳥エピオルニスの卵や始祖鳥のレプリカ等を展示しています。
ミュージアムショップでは我孫子市の鳥「オオバン」のぬいぐるみをはじめ、様々なグッズを販売しています。



ハシビロコウ 2,500円
オオバン 2,000円
シマエナガ 800円
カワセミ 2,000円



ジャパンバードフェスティバル(JBF)



日本最大級の鳥の祭典で、コロナ前の会場開催時には約4万人の来場者でにぎわっていました。今年も新型コロナウイルスの状況に鑑み、オンラインと展示により開催しました。

▼公式YouTubeチャンネルからのコンテンツ配信

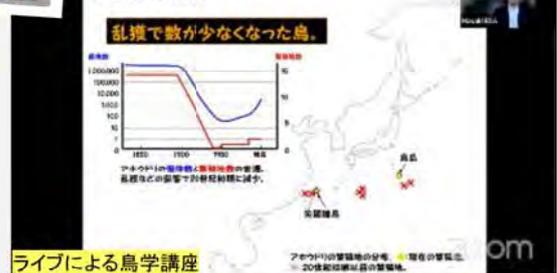


JBF2021の様子



JBF2021のPR展示

アホウドリとは?



ライブによる鳥学講座

2022年は11月5日(土)、6日(日)に開催予定

谷津ミュージアム

手賀沼沿いで最も谷津の地形と自然環境が残されている約36.7haをまるごと保全し、かつての農村環境の保全・回復を目指す「谷津ミュージアム事業」。ハイケボタルやニホンアカガエルなど2000種以上の多様な生物が生息しています。



市民との協働による環境保全

谷津ミュージアムでは市民の方と協働で谷津環境の保全活動や自然観察会などを行っています。



特定外来水生植物の駆除



ナガエツルノゲイトウ



オオバナミズキンバイ



令和2年度
合計で約3,280kg駆除
(クリーン手賀沼推進協議会)

手賀沼や周辺農地で急速に繁茂域を
拡げている特定外来植物の駆除が行
われています。

※手賀沼内については、管理者である千葉県による
大規模駆除がR2年度からスタートしています。



コウノトリの飛来記録



2004年12月～2005年3月にかけて、我孫子市北部の水田地帯に飛来。



2019年1月7日～1月20日にかけて、H28野田市放鳥の「きずな」が飛来。



2018年8月下旬～9月上旬にかけて、H30野田市放鳥の「きらら」が飛来。

各主体における取組状況について
＜関係河川事務所における取組状況＞

- 江戸川河川事務所
- 荒川上流河川事務所

（以上、委員名簿順）

令和3年度 利根運河周辺エリアにおける 取り組み報告



利根運河周辺エリアにおけるエコロジカル・ネットワーク形成に向けて



コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）
【事務局】江戸川河川事務所・野田市

※以降、「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）」は、「コウノトリ連絡協議会」または「連絡協議会」と略す。
掲載した内容は、次回連絡協議会（R4.3）にて報告・審議する予定でとりまとめ中の現時点案の情報です

1. 利根運河周辺エリアにおける行動計画（アクションプログラム）

『コウノトリ等の多様な生物と共生する地域づくりのための行動計画』 （第1期計画：2015～2020 / 第2期計画：2021～2030）

（1）策定の経緯

- ◎関東地方における生態系ネットワーク形成の推進の展望が示された「基本構想」、および具体的なプログラムが示された「基本計画」を踏まえ、利根運河周辺エリアにおいて、「多様な生物と共生する魅力的な地域づくり」を進めるために必要な具体的取組みを「行動計画」（アクションプラン）としてとりまとめた。（平成27年度）
- ◎上記計画を踏まえた短期目標年（2015～2020年）までの活動の成果と課題を踏まえ、計画の見直しを行い、第2期推進計画をとりまとめた。（令和2年度）

（2）目的

- 水辺環境等の保全・再生・創出を推進し、広域連携により、自然のつながり「エコロジカル・ネットワーク」を形成する。
- 取組みを、地域振興・経済活性化につなげ、多様な生物と共生する魅力的な地域づくりの実現を目指す。

（3）内容

目標達成に向けて、コウノトリ連絡協議会において、およそ10年間（2021～2030年）をめやすに、地域関係者と連携・協力して重点的に取り組む具体的な対策を、以下3つのテーマ別に整理（たね地づくりは第2期から新たに追加）した。

①多様な生物のすむ「定着地づくり」

- A. 地域連携による生きもの調査の促進（継続）
- B. 取組み発展のための連携促進（継続）
- C. コウノトリ定着に向けた営巣・採餌環境整備の検討（新規）



②多様な生物を育む「人・地域づくり」

- D. エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進支援（継続）
- E. コウノトリの舞う地域づくりの広報（継続）
- F. プロジェクトの継続・発展に向けたしかけの検討（新規）



③コウノトリ野生復帰の「たね地づくり」

- G. コウノトリを受け入れる社会環境づくりに関する検討（新規）



2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

(1) 田んぼの動物量調査の解説用動画の作成（定着地づくりに関する活動）

◎令和元年度まで実施してきた「水田の動物量調査の手引き」を活用した現地調査体験会は、新型コロナウイルス感染予防の観点から令和2年度、3年度は、実施を見送った。

◎令和2年度に作成した水域調査編（YouTubeチャンネル「野田市コウノトリ」にて公表中）に引き続き、調査手法をわかりやすく示した「解説動画（陸域調査編）」（R4.3公開予定）を作成した。



「野田市コウノトリ」<https://www.youtube.com/channel/UCzoIPWGFU84ckx8EzyYfFDQ>



調査手法の解説動画（陸域調査編 約6分）

【動画撮影場所】

- ・水域編：こうのとりの里・江川市民農園（協力 株式会社野田自然共生ファーム）
- ・陸域編：野田市 木間ヶ瀬地区（協力 コウノトリと共生する地域づくり推進協議会）

【調査手法監修】 東邦大学 理学部 地理生態学研究室、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科



陸域調査編 撮影地状況
（コウノトリもよく飛来する 野田市 木間ヶ瀬の水田地帯）



調査の手引き



調査手法の解説動画（水域編 約5分）

2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

(2) 利根運河と周辺谷津のネットワーク形成のための樋管魚道の調査（定着地づくりに関する活動）

- ◎利根運河と周辺谷津との接続部にある落差解消のため令和2年度に整備した城の越樋管樋管魚道においてモニタリング調査を実施した。
- ◎魚類の遡上、落差・流速の改善を確認した。

城の越排水樋管魚道



整備実施箇所

(3) 地域連携による特定外来生物アレチウリ駆除活動（定着地づくりに関する活動）

- ◎利根運河で特定外来生物アレチウリ駆除活動を柏市立柏高校の先生・生徒のボランティア（約30名）と実施した。
- ◎駆除活動実施場所のアレチウリ分布面積は初年度の約2%まで減少した。

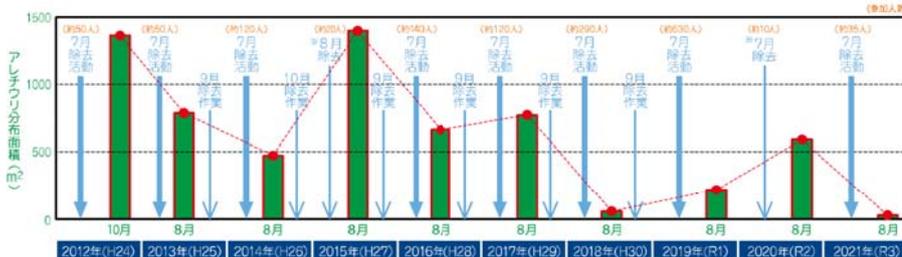
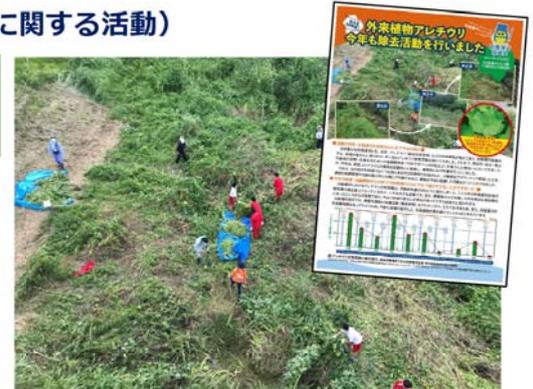


図. 駆除活動場所のアレチウリ分布面積の経年変化



アレチウリ駆除活動（主催 利根運河協議会）

2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

(4) コウノトリの舞う地域づくりの広報（人・地域づくりに関する活動）

- ◎コウノトリの舞う地域づくりの広報について、第2期推進計画を踏まえて、SNSの活用など新たなニーズを取り入れた検討を実施した。
- ◎コウノトリの紹介用ポスター、記念撮影用コウノトリ原寸パネル、デジタルサイネージ用動画「利根運河周辺エリアの野鳥」などを構想段階で、一部パネルの試験展示などを実施しているところ。

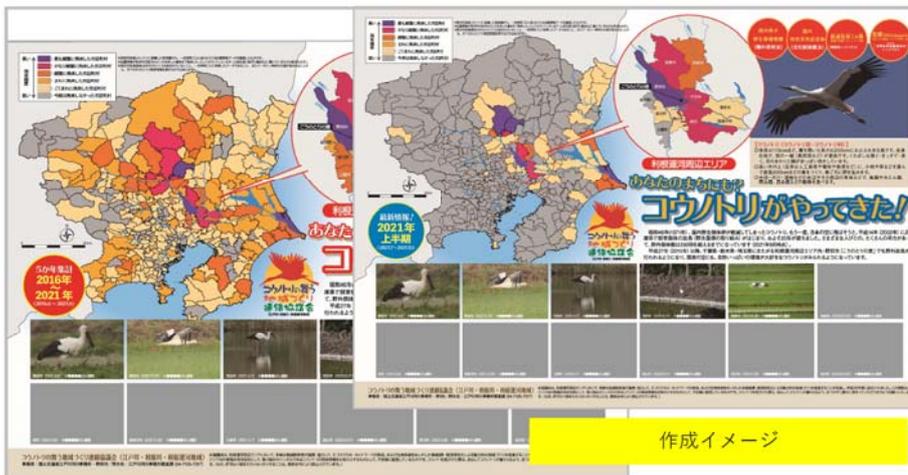


◎既往の広報ツールの活用について、コウノトリ連絡協議会PRポスター・動画や、子ども用学習教材（利根運河の生態系モバイル）の配布・展示など、連絡協議会委員・オブザーバー協力のもと継続中。

2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

(5) コウノトリ飛来地情報の共有（たね地づくりに関する活動）

- ◎第2期から、利根運河周辺エリアへのコウノトリ定着に向けて、社会的な理解・賛同を深めていくための検討を行う。
- ◎令和2年度の連絡協議会の意見を踏まえ、飛来情報の共有検討（野田市コウノトリGPSデータの整理、それを元にした広報資料づくりなど）に着手。
- ※野田市では、本年度、新たな人工巣塔2基（木間ヶ瀬地区、江川地区）を建設。



※内容および公開の是非・範囲などは、次回連絡協議会にて意見交換のうえ検討します



3. 令和4年度の取り組み計画（案）

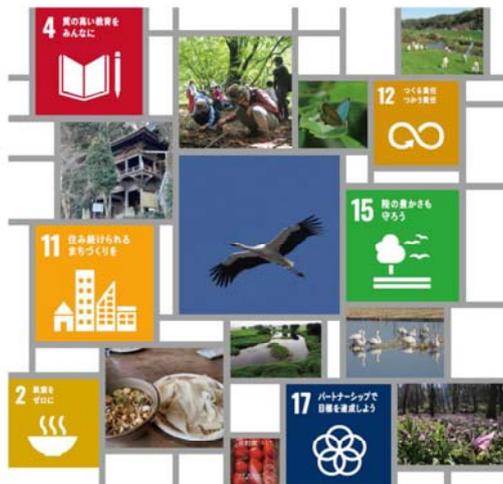
令和3年度に作成・検討した新規広報ツールの活用のほか、地域と連携した利根運河周辺の谷津環境保全の推進など、新型コロナウイルス感染予防などの社会情勢を踏まえながら、取組みを継続していく。

荒川流域の空に
コウノトリを
羽ばたかせよう



令和3年度 荒川流域エリアにおける 取り組み報告

自然と治水が調和した地域づくりの推進に向けて



荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
(事務局：荒川上流河川事務所)



1. 荒川流域エリアにおけるエコネット地域づくりアクションプラン

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（H29年度設立）

- **位置づけ**：関東地方において、多様な主体が協働・連携し、コウノトリ・トキを指標とした水辺環境の保全・再生、にぎわいのある地域振興・経済活性化に取り組む「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」の流域エリア協議会のひとつとして設立されました。
- **構成**：学識者、市民団体代表、鴻巣市、榎川市、北本市、川島町、吉見町、埼玉県、国土交通省荒川上流河川事務所
- **目的**：荒川流域エリアにおいて、関係機関が連携し、**河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策を推進と賑わいのある地域振興・経済活性化方策に取り組むことにより、エコロジカル・ネットワークの形成による魅力的な地域づくりを実現することを目的とする**ものです。

荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（R2年度策定）

～自然と治水が調和した地域づくりのための行動計画～

- **目標**：コウノトリ、トキを指標とし、関係機関が連携し、地域の自然環境を豊かにし、さらに地域振興につながる取り組みを充実させることで、自然と治水が調和した魅力的な地域づくりの実現をめざすもの。
- **内容**：地域関係者それぞれがこれまで実施してきた取り組みを引き続き推進することをベースとする。さらに今後10年間、地域連携によって以下①～⑥のプランについても取り組んでいくもの。
- **体制**：地域関係者が連携・協働してアクションプランを推進するため「荒川流域エリア・ワーキング」を設置して必要な対応を図る。

生物の 生息環境保全に 関するプラン	プラン① 合同生きもの調査の実施 	プラン② ゴミ・外来種問題への対応 	プラン③ 環境学習・観察会の推進支援
	プラン④ 各種広報の展開 	プラン⑤ エコツアーの推進支援 	プラン⑥ 関係者間のネットワーク支援
	地域振興・ 経済活性化に 関するプラン		

2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

生物の
生息環境保全に
関するプラン

(1) 地域連携による生物調査の促進【鴻巣市・北本市】

地域連携による「生きもの調査体験会（鴻巣市 吹上～大間地区）」



鴻巣市吹上地区での水田調査体験～荒川大間地区での魚類調査体験～現地意見交換

地域関係者による取組



小学校参加による緑のトラスト保全
第8号地の田植え（北本市）

(2) 清掃・外来種対策の連携推進【桶川市・吉見町・川島町】

地域関係者による取組



吉見町 スクミリンゴガイ駆除活動



川島町 越辺川清掃活動場所近傍



桶川市 荒川クリーン活動

コウノトリ野生復帰
センター（天空の里）



1月29日オープン（鴻巣市）

2. 令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）

地域振興・
経済活性化に
関するプラン

(3) 取り組みPR活動

1) 推進協議会ロゴマーク一般投票

協議会ロゴマークを決定するための一般投票



埼玉県自然学習センター



埼玉県子ども動物自然公園



投票結果（2パターンを採用予定）

施設別投票割合（N=1,326）

2) 取り組みPR資料の作成

デジタルサイネージ用動画（5パターン）の作成



デジタルサイネージ動画の一例

大型商業施設における展示



（アリオ上尾）



荒川中流部自然再生 ◎荒川62k付近左岸（鴻巣市） ◎整備中（令和1年～） ～大間地区における湿地環境の再生～

荒川中流部（大間地区）において、多様な生物の生息・生育場となる湿地環境を整備しています。周辺農地とあわせて、魚・カエル・バッタ類などさまざまな生物がすみやすい環境を広く確保することで、コウノトリなどの大型鳥類も飛来してくれることを目指しています。



湿地環境の整備：河原の一部を掘り下げ、浅い場所や深い場所など変化がある、魚などの生きものがすみやすい湿地環境をつくります。

連続性の確保：水路に落差があるために生きものが通れなくなっている場所を改良し、生きものが行き来できるようにします。

(参考) 荒川上流におけるエコネット関連取り組み

